

## 実践女子大学・実践女子大学短期大学部

## 教員研修 成果報告書 (Web 公開用)

1. 所属	文学部 国文学科
2. 職名・氏名	教授・山内博之
3. 研修期間	2019年4月1日 ～ 2020年3月31日
4. 研修先機関 (国名)	聖心女子大学 (日本)
5. 研修課題名	日本語教育に関する研究
6. 研修経過 (月単位で記載してください) 例) 4月上旬～5月下旬:	4月～7月: 「語彙読解システムの構築を視野に入れた読解教材の作成」というテーマに取り組んだ。それまでに書きためていた約1000の読み物の修正を行なった。 8月～9月: 「類似表現研究」というテーマに取り組んだ。日本語学習者が使用するための教材作成に取り組んだ。 10月: 「コーパスへの話題タグの付与」という研究に取り組んだ。 11月～1月: 「英語で専門教育を行なうための研究」に取り組んだ。2本の論文を執筆した。 2月～3月: 読解教材と、類似表現教材の試作版を作り、出版のための構成等を決定した。
7. 本研修で得られた成果等 (論文・学会発表含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この研修に直接関わる、論文としての成果は以下の2本である。</li> <li>YAMAUCHI, Hiroyuki. (2020). How to teach Japanese Linguistics in English. <i>CLEIP Journal Vol.6</i>. 53-60.</li> <li>山内博之(2020)「究極の外国語学習者の記録(1)－高野秀行の外国語学習－」『実践国文学』第97号</li> <li>・KY コーパスへの「話題タグ」「機能タグ」の付与に関しては、部分的に作業が終了し、その方法を標準化した。</li> <li>・読解教材と類似表現教材は、ともに大掛かりなシリーズになるが、出版のための8分の1ほどの作業が終了し、出版物としての雛形が完成した。</li> </ul>
8. 所感	研修者は2034年3月に定年退職の予定なので、それまでに約14年間の研究生活が残されている。今回の研修では、その14年間の研究生活をサポートするための仕掛けをいくつか作っておきたいと思った。そのため、テーマを大きく広げ、いくつかのことに取り組んだ。また、問題が生じた場合には、それを避けるのではなく、時間がかかっても、1つずつそれらをつぶしていくようにした。そのため、この1年間で目立った成果は見られなかったが、今後の14年間の研究生活の土台を作ることはできたのではないかと思う。